

学校だより

逢坂



大津市立逢坂小学校

人・自然と豊かに関わる子どもの育成

よく考える子ども

思いやりのある子ども

たくましい子ども

令和6年3月号 児童数 465名



令和5年度の最終月、3月となりました。いよいよ6年生は小学校卒業を迎えます。毎年、この時期は暖かな春の日を迎える華やいだ気持ちとともに、一抹の寂しさを感じる複雑な気持ちになります。2月4日の立春を過ぎても寒さが続き、昇降口前の睡蓮鉢の水もうっすら凍ってしまうような日がありました。鉢の中のメダカは寒さに耐えながらじっと春を待っています。3月5日は「啓蟄」です。啓という文字には「開く」という意味があり、蟄の文字は、「虫などが土などに隠れている様子」を表します。啓蟄は土や水底に隠れている虫や魚が出てくるほど暖くなる時期です。メダカも私たちが待ちわびた春は、すぐそこに来ています。

【3月行事予定】 ※行事予定に変更がある場合は学年通信等でお知らせします。

4	月	委員会活動 教育相談日	15	金	給食終了 食育の日
5	火	ブックママ・パパ		4校時日課(5年のみ5校時;卒業式準備)	
6	水	町別集会・集団下校	18	月	卒業式 (1~4年生は家庭学習)
8	金	4年生フローティングスクール説明会	19	火	3校時日課
11	月	全校5校時日課 (14日まで)	21	木	大掃除 3校時日課
13	水	卒業式予行 教育相談日	22	金	修了式 3校時日課
14	木	6年生大掃除	23	土	春季休業開始

※4月5日(金)：新6年生は8：50に登校し、入学式準備を行います。

※4月8日(月)：新任式・1学期始業式・令和6年度入学式



6年生のみなさん、卒業おめでとう！
逢坂小の思い出を大切にしてくださいね。



あすこの田はねえ

宮澤 賢治

あすこの田はねえ

あの種類では窒素があんまり多過ぎるから

もうきっぱりと灌水(みづ)を切ってね

三番除草はしないんだ

…一しんに畔を走って来て

青田のなかに汗拭くその子…

磷酸がまだ残ってゐない？ みんな使った？

それではもしこの天候がこれから五日続いたら

あの枝垂れ葉をねえ 斯ういふ風な枝垂れ葉をねえ

むしってとってしまふんだ

…せわしなくうなづき汗拭くその子

冬講習に来たときは 一年はたらいたあととは云へ

まだかゞやかな苹果のわらひをもつてゐた

いまはもう 日と汗に焼け

幾夜の不眠にやつれてゐる…

それからいいかい 今月末にあの稲が

君の胸より延びたらねえ

ちやうどシャツの上のぼたんを定規にしてねえ

葉尖を刈ってしまふんだ

…汗だけではない 泪も拭いてゐるんだな…

君が自分でかんがへた あの田もすっかり見てきたよ

【 中 略 】

しっかりやるんだよ

これからの本当の勉強はねえ

テニスをしながらかの先生から

義理で教はることでないんだ

きみのやうにさ

吹雪やわづかの仕事のひまで 泣きながら

からだに刻んで行く勉強が

まもなくぐんぐん強い芽を噴いて

どこまでのびるかわからない

それがこれからの 新しい学問のはじまりなんだ

ではさようなら

…雲からも風からも

透明な力が

そのこどもに

うつれ…

左の詩は、宮澤賢治『春と修羅 第三集』に掲載されている「あすこの田はねえ」という詩の一節です。花巻で若者に農業を教えていた賢治が、全力を尽くして働く少年に稲作指導をしている様子が描かれています。

賢治は、羅須地人協会という農民中心の集まりをつくって、農村生活の改革に向けて多くの農民たちと交流していました。1928年の夏、過労からくる発熱と肺炎のため病臥するようになるまで、賢治は農業講習や指導、肥料設計相談などを無料で数多く行いました。その期間はけっして長くはなかったとはいえ、詩の中の少年に与えたような影響を農民たちにも与えていたのでしょう。

少年の父親は、家族は、どうしたのでしょうか。詩からは、経験も十分でないままに一人、田を任され、枯らすまいと焦燥感から必死になって働く少年の姿が浮かびます。賢治が少年に注ぐ眼差しは優しくあたたかく、またその子の未来に対して賢治が託している希望は、清々しくも祈りに近い想いを感じます。

詩のとおり我々大人は、子どもにかわって勉強してやることも、働いてやることも、生きてやることもできません。結局はあたたかく見守ることしかできないのです。

3月18日(月)は、6年生にとって小学校で最後の大切な授業である卒業証書授与式です。6年生は、これまでお世話になった方々への感謝とこれからの決意を胸に式に臨みます。

小学校を巣立つ子どもたちに、

…雲からも風からも

透明な力が

そのこどもに

うつれ…

私たち教職員も、そんな願いをもって羽ばたく背中を見守りたいと思います。

※地域の皆様、保護者の皆様、卒業生への

6年間の見守りをありがとうございました。

※今年度の最終号となりました。何かとご支援いただき、誠にありがとうございました。